

平成 21 年 12 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社 エーワン精密
 代表者名 代表取締役社長 林 哲也
 (JASDAQ・コード: 6156)
 問合せ先:
 役職・氏名 代表取締役社長 林 哲也
 電話: (042) 363-1039(代)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 6 月期 (平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日) の業績予想について、平成 21 年 8 月 12 日付け当社「平成 21 年 6 月期 決算短信 (非連結)」において発表いたしました平成 22 年 6 月期の業績予想を修正する決議を平成 21 年 12 月 25 日の取締役会において行いましたので下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 6 月期 業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 7 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	839	202	219	120	円 銭 8,022.53
今回修正 (B)	660	98	115	34	2,323.87
増減額 (B-A)	▲ 179	▲ 104	▲ 104	▲ 85	—
増 減 率	▲ 21.4%	▲ 51.5%	▲ 47.6%	▲ 71.0%	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 6 月期第 2 四半期)	950	307	323	4	278.47

(2) 修正理由

今年前半に大部分の国内製造業において大幅な生産調整・在庫圧縮を行い、今年の中頃よりは在庫調整が進んだことにより生産活動が徐々に回復してきました。しかしその回復の速度は緩やかなものであり、当社の当初予想を下回るものでありました。生産活動の回復により、量産部品を手懸ける比較的規模の大きな企業の機械稼働率は上昇してきましたが、国内製造業の多数を占める中小規模の下請け企業での機械稼働率はまだ低迷しており、当社の受注も想定を下回るものとなりました。それに加え世界的なドル安傾向の中で円高が進行したこと、中東での金融危機が発生し欧州など関係の深い金融機関の不安定要素が出てきたことなどにより、外需主体で生産活動が回復してきた日本の製造業に影響を及ぼすと想定されます。また、日本国内でも可処分所得の低迷により需要が大きく伸びることはないと思われまます。このような状況を勘案して当社の平成 22 年 6 月期業績予想を下方修正いたします。

売上高につきましては、自動旋盤用カム部門で、市場が縮小傾向にあるため当初予想を慎重に見積もったこともあり計画を上回りましたが、コレットチャック部門と切削工具部門は、顧客企業の機械稼働率低下とコスト抑制志向を反映し当初予想を下回りました。その結果、第2四半期累計期間の売上高は、前回予想の839百万円から179百万円減額し、660百万円へ修正いたします。

製造原価、販売費及び一般管理費については今期の特殊要因はなく、操業度が低下したことにより利益幅が落ちております。これにより営業利益は、前回予想の202百万円から104百万円減額し、98百万円へ修正いたします。

営業外損益、特別損益についても今期の特殊要因はなく、経常利益を前回予想の219百万円から104百万円減額し、115百万円へと修正し、四半期純利益を前回予想の120百万円から85百万円減額し、34百万円へと修正いたします。

(3) 通期(平成21年7月1日～平成22年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	1,700	410	437	238	円 銭 15,909.84
今回修正(B)	1,500	326	353	192	12,824.51
増減額(B-A)	▲200	▲84	▲84	▲46	—
増減率	▲11.8%	▲20.5%	▲19.3%	▲19.4%	—
(ご参考)前期実績 (平成21年6月期)	1,483	324	345	1	100.34

(4) 修正理由

通期の修正理由は1.(2)と同様です。

その結果、売上高は前回予想の1,700百万円から200百万円減額し、1,500百万円へ修正いたします。

製造原価、販売費及び一般管理費に今期の特殊要因はなく、営業利益は前回予想410百万円から84百万円減額し、326百万円へと修正いたします。

営業外損益、特別損益についても今期の特殊要因はなく、経常利益を前回予想の437百万円から84百万円減額し、353百万円へと修正し、当期純利益を前回予想の238百万円から46百万円減額し、192百万円へと修正いたします。

以 上